

出張報告書

令和5年10月30日

氏名 市議会議員 早川 幸汰	要務 全国市議会議長会研究フォーラムに参加
期間 令和5年10月25日から 令和5年10月26日まで	出張先 西日本総合展示場 新館 福岡県北九州市小倉北区浅野3丁目8-1

意見・調査事項

統一地方選挙の検証と地方議会の課題

【25日】

・基調講演「躍動的でワクワクする市議会に」
片山 善博 大正大学教授兼地域構想研究所長

・パネルディスカッション 「統一地方選挙の検証と地方議会の課題」

コーディネーター

谷 隆徳 日本経済新聞社編集委員

パネリスト

勢 一 智 子 西南学院大学法学部教授

辻 陽 近畿大学法学部教授

濱 田 真 里 Stand by Women代表 女性議員のハラスメント相談センター共同
代表

田 仲 常 郎 北九州市議会議長

【26日】

・課題討議 「議員のなり手不足問題への取組報告」

コーディネーター

江 藤 俊 昭 大正大学社会共生学部公共政策学科

事例報告者

辻 弘 之 登別市議会議長

た ぞ え 麻 友 一般社団法人WOMAN SHIFT理事 目黒区議会議員

永 野 慶 一 郎 枕崎市議会議長

【ねらい】

近年、地方議会は議員の性別や年齢構成の偏り、なり手不足の深刻化、議会への関心の低下などの厳しい課題に直面しており、昨年12月には地方自治法の一部改正により議員の兼業規制の緩和などが図られ、また、本年4月には同法の一部改正により、地方議会の役割及び議員の職務等が法律上明確化されるなど、多様な人材の地方議会への参画促進に向けた環境整備が進められているものの、今後のさらなる取り組みが求められている状況である。

今回のテーマである「統一地方選挙の検証と地方議会の課題」は自分が解決に向け取り組む内容であったことから、統一地方選挙の結果を検証し、改めて地方議会の課題を整理した上で、その解決に向けた今後の方向性を予測することをねらいとする。

【意見等】

「地方議会の課題」について現状は、あくまで議会が中心であり、可決されたものを執行するのが首長という構図であるが、ほとんどの地方自治体では首長に注目が集まる傾向があり、これは議員が住民に対して責任を果たしていないことに起因するものであると言われている。

例えば、公開の場での真剣な議論が欠けていること。予算の審査に対して真剣な議論が少なく、毎回ほぼ無傷で可決される。これは首長と議会議員を住民が直接選挙で選ぶ二元代表制であるにも関わらず、国の政党政治のような議員構成になっていることに起因しており、簡単に言うと多様性がなく、緊張感のない組織になっていることが大きな要因であると考えられる。現在の下関も同様の状況にある。会派単位での意見が中心で、個人の意見を全面に出すことはなく、考えない議員が生まれる要因でもある。

行政側からは、提案された予算案が突き返される事があってはならないという空気感があるとの指摘に対し、予算に対し、冷静な議論を通して予算の大小が動くことで住民に期待感をもたらすことができるとの発言があり、確かに当選後、自分の場合でも委員会内では必要な箇所では常に議論をしているが、予算の可否を問われるとなると、全体のバランスを考えると可決する選択を比較的容易に取っていたこと反省するとともに、議会全体でそのような空気感がある事は認識しなければならない課題である。これとは別に、反対する立場の会派とのコントラストによって行政側の立場に立つことが正義かのような空気感も口にはしないが流れているように少ない経験からではあるが感じている。

スポーツの八百長のような面白くない試合（議会）を見たいと思うか？という例えは、議会が担うべき役割に対して存在意義が薄くなり、無投票当選や低投票率につながっている要因を表す表現として最適であり危機感が増す内容であった。

真に正しい選択ができるような組織であるためには、議員の自己研鑽と住民の監視が重要であり必要である。

まず、議会側から変化するためには4年間構成員は変わることのないので意味のある議論を増やし議会の力量を上げることが重要と考える。とはいえ組織ではなく個人の集団であるため、それぞれの努力次第ではある。現状、議会内に仲間は少ないので、個人の質を高め、有意義な質疑を続けることが有効であると考え、取り組む。考え方はそれぞれ違うが、意味のある議論を通して議会を活発なものにする。これまで以上に一つ一つの議案に対し真剣に議論を深めて、市民に対し面白みのある内容になるように努める。

次に住民側からの変化のためには、行政の都合と住民の都合は必ずしも一致しないにも関わらず、議案はほぼそのまま可決されてしまい、住民の声を取り込めておらず関心が低くなっているとの指摘に対し、関わりのあるジャンルには参加して自分なりの意見を持つことで改善されるとの意見があった。特に若い世代は、そもそもの関心がないので行政からの関わり方（広報）を変えるのが効果的であると考え

る。
個人的には議会ではどのような議案があるか興味を持ってそうな議案を事前に告知して、興味のある人は委員会を観に来る、もしくは動画で見る動きが取れるように実施する。

普通に考えて平日の昼間に誰が議場に来れるのか考えずとも想像できるが、議会側からの門扉は開かれてるという姿勢を示しているだけと取られかねない。外国では夜間や休日に議会を実施する場合もあるようで、住民による議論を活発化させるためにも、当議会も同様の取り組みを実証実験的に実施し、住民に歩み寄ることも必要である。

本市の現状の問題点としては、発言する人だけの意見を聞き、偏りが起こっている事業が見受けられるが、裏を返せばほとんどの住民が声をあげていない状態なので、どんな事業でも動きが起きれば意見は通っていくのではないかと仮定し、若い世

代への住民参加を促していきたいと思う。加えて高いレベルで選択・判断できるような職員を採用・教育することも同時に必要とされるので取り組む。

フォーラムに対しては参加費9,000円が最安、最高は30,000円近い参加費。それに加え遠方であれば宿泊費や飲食費。議員が使える政務活動費、調査旅費を各地に落とすための会のように感じた。それ自体は悪いことでは全くないが、会場では机すら用意されておらず、フォーラムの内容が悪くないだけに少し残念であった。

参加者の3割以上は寝ており、議場でもよく見かける光景に似ていた。何しにきとるんだと思いつつも、終了後、街に繰り出す体力の温存をしているように映った。全国的に見ても議員の質の低さは目に余るものがあり、本来、このような参加者に対してかなり耳の痛い内容であるはずなのに全く響いていない様子を見ると、日本の未来は暗いなと思わざるを得なかった。

そんな姿は自身の反面教師として、背筋を伸ばし直すきっかけになり大変有意義であった。

次回開催地域の議員団が、開催地の説明のために来ていたが、税を使って来ている事を到底容認できるような内容のものでなかった事から、もし本市で開催されるようなことがあれば、それは多いに歓迎するところであるが、前例を踏襲して行うことがないよう、しっかり意見できる現状が把握できたので今後活かしていく。

総括

議員が2400人と学者や有識者が集まって、問題の中心である住民はその場にはいない事は不毛である気がした。各位持ち帰って改善に取り組むべきであるが、今回の課題の状態は更に悪化していく予感がしてならない。下関市議会でも全議員、参加すべき内容であったが、数名しか参加していなかったこともあり、今回の件に関して従来通りあまり進んでいかないのだろうと感じるところである。希望を持たず着実にできることを取り組んでいく。以上。

